NO.97 会社訪問

代表取締役社長 関谷 実利 氏

株式会社シナガワ

会社プロフィール
代 表 者：代表取締役社長　関谷 実利
所 在 地：〒206-0811　東京都稲城市押立863
T E L：042-378-2210
F A X：042-378-2216
設　　立：1986年6月
資 本 金：1,000万円
事業内容：ガス計量器製造・販売、JCSS校正業務など
U R L：http://www.shinagawa-net.co.jp

聞き手：山口美奈子（広報委員）　山河正道（事務局次長）　取材・撮影・編集：クリエイティブ・レイ㈱

JCSS校正業務で国内外の科学機器を支える ガスメーター検定器のトップメーカー

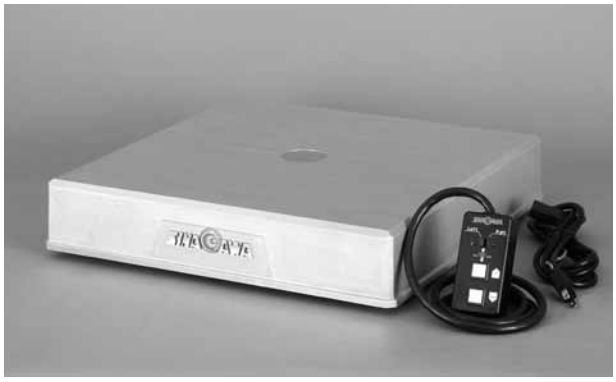
―― まずは、御社の主な事業内容、主力製品などを教えていただけますか。

弊社は、家庭用ガスメーターを検定するための基準器をはじめ、流量計校正用標準器、環境測定用の積算流量計の製造・販売をしているメーカーです。中でも弊社の代表的な製品はガスメーターの精度を確認するための検定を行う際に使用する基準器です。以前は国内で製造しているメーカーが数社あったのですが、現在では基準湿式ガスメーターの製造を行っているのは弊社１社のみです。弊社の基準器は、その高い精度と信頼性から高い評価をいただいています。

また、弊社が構築している高度な検査、校正施設及び品質管理体制は自社製品の品質保証という目的だけにとどまらず、大手企業や大学、研究機関などの依頼を受けて、さまざまな気体の流量計の校正を行うJCSS（計量法校正事業者登録制度）校正事業にも活用されています。JCSSの認定事業者として、国際規格ISO／IEC17025に基づき、計測機器が要求される事項に適合しているか校正を行っています。おかげさまでこちらも高い評価をいただいています。

湿式ガスメータ／ W-NKタイプ
広範囲の流量を高精度で計測できるため、基準器や研究開発分野で多く採用されている

乾式ガスメータ／ DCタイプ
樹脂製で軽量なため、携帯性に優れており環境計測に最適



自動整準台／ ALW-100タイプ
水平設置姿勢を±0.0028°の再現性で自動水平管理・監視できる新商品「ALW-100」

デジタルカウンタ／ SUSカウンタシステム
ガスメータから出力される信号により瞬時流量、積算流量を表示可能

ロゴマーク

1985 年、私が 32 歳の頃、JICA（国際協力事業団）によるマレーシア国家標準局へ旧通産省計量研究所のスタッフと技術指導派遣依頼の機会がありました。それをきっかけに、海外との輸出に意欲的になり、1989 年に輸出貿易を開始して以来、海外市場への展開も積極的に継続しています。初めて輸出した台湾では、現地運送会社のミスにより大型基準器が船からの荷下ろしの際に落下してしまい、破損事故が発生するトラブルに見舞われました。納期が刻一刻と迫る中、言葉も満足に通じない現地で修理を依頼され、作業を行ったことは今でも強烈に記憶に残っています。輸出業務は毎年増加しており、現在では世界 64 カ国との実績があります。先日、カリブ海の島国、トリニダード・トバゴからも問い合わせがありました。2009 年からは、海外への進出だけでなく、JICA（国際協力機関）研修生の受け入れや、外国人社員の採用など、海外志向の人材交流や人材育成にも力を注いでいます。最近、海外のエンドユーザーの声をダイレクトに業務に反映させることを目的に、ノルウェー人の社員を登用しました。

── 創業の経緯や当時の様子などをお聞かせください。

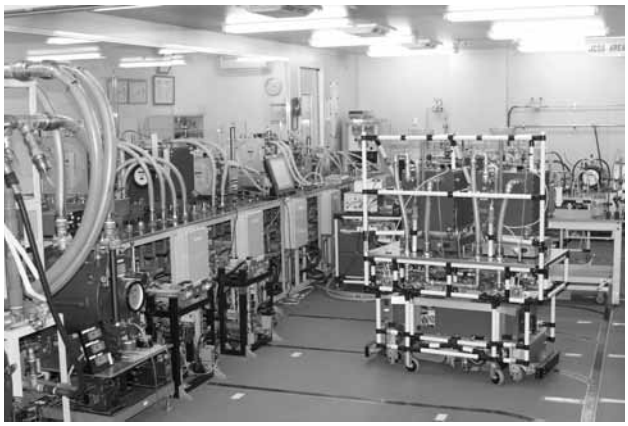
1979 年、旧品川製作所の倒産に伴い、営業権譲渡を受けた関西ガスメータの出資により、品川区五反田に開発技術室が新設され、創業しました。

当時は 4 人のスタッフで開発設計から試作組立、販売までを行っていました。京都の工場で製作されたメーターの営業活動を行っていたのですが、会社の知名度もなく、慣れないセールスにたいへん苦労した思い出があります。その後、1986 年に営業を一本化しながら、製造工場と分離化した形態の業務提携や買収を競合製造メーカーと成立させたことで、会社設立となりました。2003 年には関西ガスメータから分離・独立。2008 年には、長年の夢だった工場と一体化した経営拠点を東京都稲城市に置き、営業をスタートすることになりました。

現在の社名である「シナガワ」は 1992 年より使用しています。ちなみに「シナガワ」のロゴマークは私がデザインしました。

── これまでに経営者として強く印象に残った出来事などがあれば、お聞かせください。

現在の稲城市押立に工場を建てる以前、同じ稲城市の大丸という場所に工場があったのですが、そこに新しく道路が作られるということで立ち退くことになりました。新しい工場として最適な土地が見つかり、銀行からの融資も取り付け、いざ買うという寸前になって、その土地のオーナーさんに突然キャンセルされてしまったときは本当に困りました。すでに立ち退きのサインを済ませていましたし、どうしようかと考



校正室　品質に影響する校正作業は、24時間恒温恒湿空調の校正室で行われ、自動化により無人化や夜間稼働によるコスト削減を目指している

計測管理室　無人化となった校正室内をウィンドー越しに監視。モニターで校正作業をコントロールしている

えあぐねていたところ、タイミングよく現在の場所が見つかり、新工場を移設することができたのです。

ここは借地なので土地購入費の返済の必要がありません。その分、工場の設備投資にお金を投入することができました。計測機器を校正する際に誤差が生じないよう作業環境を整備するために校正室だけでも２億円ほどかけました。

何もないところから今の工場を作り上げた喜びはひとしおですし、経営者として、大いに奮い立ちましたね。

余談ですが、この場所には倉庫があって、その中にはウルトラマンシリーズで使われていた怪獣の着ぐるみが三千着ぐらい保管されていました。今思えば、マニアにとってはたまらない光景だったんじゃないでしょうか。その後、着ぐるみは別の場所に保管されているそうです。

── 御社の経営理念や経営方針などをお聞かせください。

経営方針は「日々進化」と「顧客を待たせない」です。特に、お客様にご迷惑をかけないようにするためにも注文をいただいてから３日で製品を出荷するよう目標を立てています。経営理念としては「お客様に信頼される社員を目指し、会社は信頼される商品をもって存続し、社会に貢献します」、「社員の創造力を尊重し、市場をリードする独創性豊かな商品造りに努めます」、「会社は自律的なマインドと行動力の成果に対して、公平な評価を行います」と掲げています。

── 現在の課題、今後の事業目標などをお聞かせください。

弊社の製品の主要部はすべてハンダで溶接されているのですが、鉛などの使用が制限されている人体に有害な物質対策（RoHS 対策）に取り組んだところ、ハンダを使用しない接着ドラムを誕生させることができました。今後、この製品が問題ないか、あらゆるガス測定で評価し、新商品として開発を進めていきたいと思います。

営業開発では、中国・台湾・韓国の３カ国にある海外現地法人でメンテナンスの相談から部品の供給までまかなえるような体制を整えました。この体制を整えたことで、将来的にその国ごとのサービスの拡充が期待できますし、故障などがあっても、わざわざ日本まで修理品を持ち込む必要がないため、輸送の手間やコストが省けるほか、短納期での対応が可能となり、お客様に喜ばれております。中国国内のメンテナンス、修理作業が開始された頃は、１年に１、２回現地に赴き、メンテナンス、修理、検査方法といったトレーニングを数年にわたり行いました。技術指導のほか、ユーザー様や政府機関との交渉のために営業社員、技術者、現場作業員などのスタッフを派遣しています。現地のスタッフと弊社スタッフのコミュニケーションを積極的にとることで、異なる文化、習慣などの理解に努めています。また、現地スタッフを日本に招き、訪問研修を実施するなどして、現在では良好な関係を築くことができています。今後は、各国に１社のメンテナンス会社を作ることが目標です。

ショールーム

会社入口に置かれている昭和38年製造の500L湿式ガスメータのモニュメントと少人数ながら世代や国籍を超えて和気あいあい働く社員たち ▶

それと、現在 64 カ国ある輸出国を 2020 年までに 100 カ国まで増やすことも目標のひとつとしています。ガスや気体というものは、いろいろな分野で使われていますから、我々が思ってもいないような機関や企業などから問い合わせをいただくことがあります。最近では、鑑識や科学捜査を行う警察の捜査機関である科学捜査研究所（科捜研）からも問い合わせがありました。性能を重視する分野で弊社の製品が役に立ち、販路がさらに拡大していくように、これからも努力していきたいです。

工場の生産性については、校正業務のシステム拡大と検査の夜間自動無人化作業に取り組んでいきたいと考えています。見間違いや読み間違いなどの人為的なミスをなくすためにセンサーを導入することで業務の質と信頼度を上げながら、夜間の人員を減らすことでコストダウンを図ります。さらに生産性を数値化することで効率の評価を従業員間で共有し、改善を図りながら自動化をめざしていきたいです。

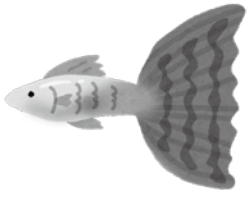
── 関谷社長の愛読書などがありましたら、教えてください。

愛読書などは特にないのですが、スティーブ・ジョブズや松下幸之助などをはじめ、新しいものを生み出し、成功を収めた人物の伝記をよく読みます。彼らは時代のニーズにいち早く反応し、応えることで成功を収めたわけですから、同じものづくりをする人間としてたいへん興味があります。

── 当協会に対するご意見やご要望がありましたら、一言お願いいたします。

弊社のお客様にも協会会員が多くいらっしゃいます。みなさんが抱えている様々な課題や、商品に関する情報を聞いてみたいですし、弊社が力になれることがあればぜひ支援させていただきたいです。協会には新たなマーケットを会員の間で共有し、互いに発展できるような関係をアシストしていただければと考えています。

休日は DIY に没頭し、金魚・熱帯魚に癒される

小さい頃、お隣に大工さんがいた環境で育った影響で工作を趣味にしています。作ることはもちろんですが、なによりも頭の中で設計や寸法を考える工程が好きです。ホームセンターにもよく足を運んでは工具を買い求めているので、家にはたくさんの工具が集まってしまいました。

それと、庭の池では金魚、家の中では 60ｃｍほどの水槽に熱帯魚のグッピーを飼っています。金魚は社会人になってすぐに飼い始めました。金魚や熱帯魚は眺めているだけで忙しい日常を忘れさせてくれますし、なんといっても心が癒されます。